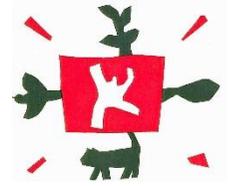


# 共同通信



2017年3月16日 247号(456号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

## To tell the story 145

### 「おばあちゃんと幼稚園」

私は、ねっこ組の志歩の祖母です。30年前は、ねっこ組の志歩の母（賞子）の母でした。賞子の弟も、西宮共同幼稚園ですので、園長先生、順子先生とも長いお付き合いです。

志歩は、4歳（年中）からお世話になりました。志歩が、共同に通い始めると、私は30年前にタイムスリップしてしまい、志歩に向かって“しょうこ”と呼びかけ、あきれられていました。

共同では、目立つこともない志歩だったようですが、家では縄跳び、一本歯下駄、自転車に挑戦し、みんなについていこうと努力していました。弟想い、家族

想いの優しい子どもに育っています。そんな彼女ももう卒園です。

先日、納戸で探し物をしていて、ふと2冊の冊子が目に留まりました。1990年の卒園文集「すばらしきとき」「はる・なつ・あき・ふゆ そしてはる」です。私自身は、すっかり忘れていたのですが、文集の表紙やカットに、私のつたない切り絵を沢山使ってくださいました。あの頃、私も幼稚園での子どもたちの生活に感動し、私自身が成長させて頂いたのだから、再認識しました。

4～5冊の写真集、そしてスクラップブックに貼られた作品集も出てきました。

時代にふり回されるのではない

あの時 心を躍らせて生きた

後悔に 身をふるわせたこともある

笑い 泣き 歯ぎしりをした

今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい

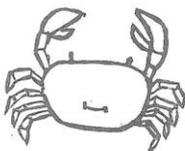
自分の人生を語ってほしい

園長先生が若い！順子先生が可愛い！子どもたちの豊かな表情！亡くなった義母まで嬉しそうに、いちごパーティに、おはぎパーティに参加しています。共同幼稚園の先生方の情熱と子どもたちの成長に改めて感動しました。

志歩たちも、母や叔父と同様、園長先生、順子先生を始め、若い先生方の思いっきり大きな愛情に包まれて、大きく成長したに違いありません。先生方、有難うございました。

母親（賞子）がアレルギーの関係で、無理をお願いしたり、ご迷惑をおかけしたことと思います。我が子の身体を気遣う母心、そしてあまりに多くの身体に悪い添加物が氾濫している現実には危機感を感じている母心を少し理解してやってください。思い起こせば、私もかなり強引な保護者で、先生方にご迷惑やご心配をおかけしました。その頃、順子先生に「“どろんこと太陽”（当時の通信）は、いつもあなたの事を考えて書いているのよ。」と言われたことを覚えています。彼女の強引さは、母譲りなのでしょう。でも、その強引さがあるって、今も順子先生と良い関係でいられるのかな…と、勝手に思っています。

（神保 陽子）



## 「くまモン司書」登場 ～わたしの小学校司書体験記～

2016年11月15日から2017年2月24日までの3か月半、知人・Sさんの介護休暇の代替司書として、箕面市立西南小学校司書として勤務した。

最初、代替の話があった時、完全リタイアして現場を離れている私に小学校が務まるのかという不安はあったが、それ以上に学校司書（注1）全校配置の箕面で司書不在の時間を作ってはならないという思いが強くあった。Sさんとは、「学校図書館問題研究会」（注2）や「学校図書館を考える会・近畿」（注3）などでも旧知の仲だし、ここは助っ人に行かねばと思い、連れ合いに相談したら、「年金暮らしても、お座敷の声が掛かるうちが華」と賛成してくれたので、行くことになった。

西南小学校は、児童数718人、職員数52人。全校22クラスで国語の時間として、週一回の「図書の時間」がある。従って、週22時間の「図書の時間」を受け持つことになる。事前に2日間、Sさんから仕事の引継ぎとレクチャーを受け、実際の仕事を体験してからいざ出勤。

しかし、最初の出勤日は火曜日だが、土曜にあった音楽会の代休の月曜日の時間割で、いきなり6時間も「図書の時間」があるうえ、勘違いからパソコンのパスワードがわからず一時パニックになった。幸い、図書館のパソコンに詳しい教師の手を借りて、ドタバタながら何とかしの

いだ初日であった。

高校司書としてのキャリアはあっても、小学校は初めてなので最初の 2 週間は色々まとまどうことが多かった。例えば、予約用紙に書かれた名前や書名が判読できない。さらには予約する本の書名と実際の本が結びつかない、などである。これは 2 週間ほどたって時間的に余裕ができたとき、予約用紙を全部洗いなおし、書架を全部見まわして、ようやく子どもに人気の本が少しわかってきた。

また、45 分単位の授業では、一クラスの時間が終わると、5 分の休憩時間のあとすぐ次のクラスがやってくる。低学年だと、一クラスで百冊単位の本が返されて、また借りられる。その繰り返しで、とても 5 分休憩では、本を元の書架に戻すことはできない。「読み語り」（箕面では「読み聞かせ」を「読み語り」としている）でも、どんな本を選べば良いかわからず、学図研の小学校勤務の仲間色々アドバイスを受け、小物を使った『どうぞのいす』のアニメーション（注 4）をしたり紙芝居をしったりして何とか乗り切った。S さんがクラスごとに何を讀んだか記録を残しておいてくれたのも、大いに助かった。ただ困ったことは、老眼で細かい字が読みづらく、読みやすい絵本に偏ったのが残念である。

いくらコンピュータ化されてるとはいえ、「読み語り」のあと、一週間前の図書の時間に貸し出した本を返却させ、また新しい本を借りさせる作業をするのは、かなり時間的に厳しい。低学年ならなお

さらである。加えて、図書の時間には多数の予約が出される。返却や貸出作業中にも、「先生、予約します。」「私の予約本はまだ？」「〇〇の本はどこ？」などと色々声がかかり。まるで聖徳太子の気分である。また、低学年の予約は書名や自分の名前までも間違ったり、判読不明のものが多くあり、要注意である。予約用紙は必ず司書に直接手渡しするよう、S さんが指導してくれていたもので、その場で名前や巻数が抜けているものは、その都度注意して、書き直させた。

箕面市の学校図書館の管理システムは、市立図書館と同じで、市内の全公立小・中学校とオンラインで結ばれている。従って、探している本がどこにあるかがすぐにわかって便利だが、このシステムは発展途上で、まだまだ改良の余地があることを月に一度開かれる司書連絡会で知った。他校や市立図書館にある本はメールで配本依頼できる。学校間なら最短、翌日には市内のメール便で届くし、市立図書館のものならば金曜までに配本依頼をすれば、翌火曜日に配本される。

「図書の時間」は、前述のように国語の一環であり、担任が必ず付いてくる。また、司書が不在の時は返却と貸出を担当教師ができるようになっている。とは言っても、やはり学校司書が中心で運営されている。本と児童との対応だけで精一杯のところへ中には喧嘩や一冊の本の取り合いの仲裁など、子どもの動きに振り回されることもあるが、子どもたちは元気で可愛い。

教師からは実に様々な資料要求が図書館に寄せられる。「海辺の生物についての本を集めてほしい」、「漢和辞典を一クラス分用意して」、「昔の暮らしと道具調べに使える本がたくさん欲しい」、「家庭科クイズに役立つ本が欲しい」、「昔話の本を集めてほしい」『はらぺこあおむし』の英語版が見たい」などなどである。その都度、必要な本を揃え準備すると、先生方は多忙なので大変感謝される。

また、小学校では季節ごとの行事は子どもの生活に密着していて、「読み語り」の依頼も多い。私の勤務期間中、11月の人権週間には、5・6年でアメリカの黒人差別を扱った絵本『ローザ』を読んだし、年末・年始にはクリスマス関連で『みなみのしまのサンタクロース』や、正月明けには『十二支のはなし』や『はつゆめはひみつ』などを読んだ。また、2年生が校内郵便局を実施する前は、『もりのゆうびんきょく』を読んだ。さらに2月の最終の「図書の日」では、6年生に「中学生になる君に」と題するブックトーク（注5）を行い、担任から感謝された。

低学年の子は特に絵本が大好きで、読んだものには必ず予約がつくが、一クラスに何人も付くのでなかなか順番が回ってこない。他にも人気の本は、一冊に20人以上予約がつくこともあり、何か月も待たなければ回ってこない。小学校図書館の本は、大変利用が多いので痛みも激しい。ハードカバーは表紙と中身が外れたり、本の背の天地がボロボロになったり、表紙の角が丸くなったりする。また

ソフトカバーは全体が大きくしなり、これまた中身が抜け落ちたりする。その都度必要に応じて、時間をみつけて修理しているがとても追いつかない。

毎日多忙で一日があつという間に過ぎ去る。疲れるが孫のような子どもたちが見せるダイレクトな反応や表情は本当にかわいい。全校朝会で校長から紹介されて挨拶をしたとき、くまモンエプロンをした私を見て歓声が上がり、「にしのみやにすんでいる、のみやのすきな、にのみやです。のみや、にのみや、にしのみやとおぼえてください。」と言ったら、次の「図書の日」に来た1年生が早速「西宮に住んでいる飲み屋の好きな二宮先生！」と言って図書館に入ってきた。若い担任の先生に「どうでもいいことはよく覚えていますね。」と笑いあった。そして、後から「せんせい、のみやって、なに？」と聞いてくる。「おとなのひとが、おさけをのむところ」と答えたが、本当にわかっているやら…。

西南小学校には、1・2年生が5限で終わる毎週木曜日の6限目に地域の文庫活動をしている「にじの会」からお母さん方が来校し、「お話し会」を開いている。私が勤務を始めた最初の木曜日には、「学校図書館を考える会・近畿」の元代表で文庫活動をされている新井せい子さんも激励に来てくれた。

また、2月初旬には入学説明会があり、約120人の新一年生の保護者の前で、Sさんが作っていたパワーポイントのスライドを使い箕面市の学校図書館の状況と

「図書の時間」や調べ学習活動について、話をさせてもらった。話した内容は、①箕面市の公立小・中学校には、有資格の「専任・専門」の学校司書が全校配置されていて、子どもたちが学校にいる間はずっと開館していること。②国語の授業の一環として「図書の時間」では、図書館利用のマナーや使い方だけでなく、「読み語り」「紙芝居」「ブックトーク」など、本に親しむ取り組みをしていること。③子どもが学校から借りて帰った本を親御さんが一緒に読んだり、楽しんだりしてあげてほしいことなどを話した。

小学校の職員は多忙なため、箕面市では一人ひとりにパソコンが支給され、職員の年休・出張など毎日の連絡事項は、校務シェアボードに各自が記入し、全職員がそれを共有するというやりかたになっている。これは多忙な小学校には合理的で便利だ。また、箕面市は図書館だけでなく、給食も充実している。全校自校調理方式で、箕面の地産品の野菜がたっぷりのヘルシーなメニューが多く、寒い今年の冬も暖かいものが食べられて幸せだった。

短い間だったが、今まで知っているようで知らなかった小学校図書館に勤務してみて、初めてわかったこともあり、この年になって改めて貴重な体験をすることができた。なによりも、子どもたちだけでなく、若い先生方が親切かつ優しく接してくれてとてもうれしかった。反面、私は「司書」資格要件を必要とされながら、臨時職員（フルタイムのアルバイト

扱い）の給与区分が「事務補助」と同じで、日当は最低ランクの 6898 円で時間給にすれば 890 円という高校生並のバイト代である。「専門・専任」の箕面の学校司書でも「非常勤短時間勤務職員」の給与は低く、とても仕事内容にふさわしいものではない。学校司書の専門性と業務内容にふさわしい処遇と給与が保証されるべきだと強く感じた。

(注 1)「学校司書」とは、小・中・高校の学校図書館で働く人の総称。実体のない「司書教諭」とは異なり実務全般を担う。2014 年、「学校図書館法」に明記されたが、小・中学校では設置自治体によって職名や待遇がまちまちという問題点がある。

(注 2)「学校図書館問題研究会」(略称;学図研 がくとけん)とは、1985 年、学校司書・教師・研究者などで結成され、学校図書館教育の実践・研究団体。全国に約 700 名の会員がいて、地域ごとに研究例会をもっているほか、毎年夏に各県持ち回りで全国大会を開いている。月刊「学図研ニュース」、機関誌『がくと』(年刊)の発行のほか、出版物も多数。活動内容は、学校図書館問題研究会のHPを参照。

(注 3)「学校図書館を考える会・近畿」とは、1991 年に学校図書館に関心を持つ住民が主体となって結成された学習交流団体。大阪府箕面市、豊中市、羽曳野市に学校司書配置を進め

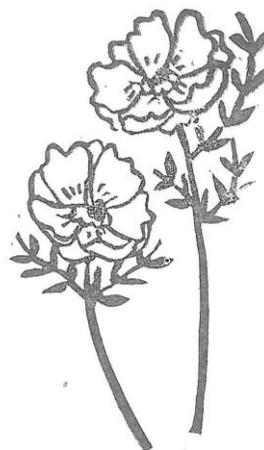
た活動記録『わがまちの学校図書館作り』（教育史料出版会）を刊行するなど、その活動は各地の学校図書館を考える会の先鞭となった。2014年に役割を終えたとして解散した。

(注4)「アニマシオン」とは、子どもたちに本の魅力を伝えるための活動。提唱者のマリア・モンセラット・サルト氏（スペイン）の著書『読書へのアニマシオン 75の作戦』（柏書房）によれば、75の方法がある。

(注5)「ブックトーク」とは、一つのテーマで話をつなぎ数冊の本を紹介する方法。学校図書館では、教科学習の前後に単元に関連した内容のものをする場合が多い。

（二宮 博行）

元・県立尼崎北高校学校司書



日本基督教団西宮公会教会集会案内

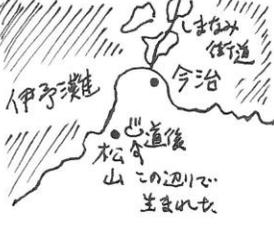
早天祈祷会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公会教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公会教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公会教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第1・3水曜日午後7時から	於：西宮公会教会集会室
読書会	毎週第2・4水曜日午後7時から	於：西宮公会教会集会室

(早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016年4月よりしばらくお休みしています。)

踊り念仏 ~ 一遍



栗原康(やすとよ)権盛  
のが陰で一遍上人に出会  
はる。  
一遍をパソコンで調べたり「現代  
版」のから五頭身しまで  
出てきた。  
迷う民あづく自分で創る  
こととくは。江戸時代の  
人物は大体こんな感じだし、  
僧侶なら・・・と思っは。



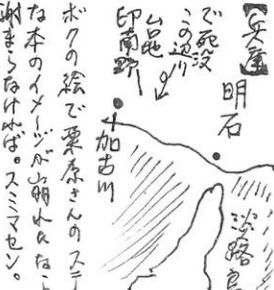
一遍は 1234年、今の松山  
道後生まれ  
伊予の名川武士・河野家  
通廣公の次男として出生

【四国】



1279年、41才のとき、今の  
信州・佐久で踊り念仏  
を始める。  
どんな感じの踊りだろう？  
絵にするのはむずかしいけど

とくかく楽しめられたらう。  
ガリヤークニヤ崎さんおれいに  
皆な勢あんなう長んやうは



51才、兵庫の印南野(いな  
みの)を移住している。その後、  
兵庫で死没。  
全日遊行で最後が兵庫だ  
つたのはスゴクヒキになる。  
【安達】 明石、淡路島  
この辺り  
印南野、十加古川

ボクの絵で栗原さんのスミマ  
な本のイメージがおおれられたら  
謝まうねんば。スミマセン。

栗原康著『死んではおどろく一遍上人伝』より引用

堀保己一物語



堀保己一(はなわほきち)  
は江戸期の全言の学者  
本名・荻野寅次郎。  
1746年5月生れ、大人になり  
江戸へ「学問をしらべ」  
一念で猛烈勉強。



堀保己一(一七四六-一八二二)  
口伝で歌人の影をせせ  
坂木は寅次郎(1746-1822)  
群書類従(ぶんしやう)  
として出版。現存。  
→保己一生涯20年を  
記念して発行された切手



20世紀「サイン切手」として  
発行された  
※ヘレンは3回来日。保木の  
母は幼いヘレンに「保己一先生  
はおれ様の目標になるぞよ」と  
よく話した。



堀正一著『堀保己一ととも』より引用

# あんなこと こんなこと

2017年2月18日(土)

けん玉名人がやってきた！

園舎2階に、お兄さん4人が登場！とにかく驚きの神ワザが次々と披露され、みんなは目をまん丸にして、びっくり！



2017年2月19日(日)9時～

教会学校

高松公園

礼拝を守った後、高松公園に移動！幼稚園のお友だちから中学生まで学年混合で、2チーム結成しました。さあ、ドッチビーで対決です！最後の方には2つものボールが入り、もうどっちからやってくるのか、「キャー！キャー！」「ドタバタ～」



2017年3月1日(水)10時～12時ごろ

**ちいさなお茶会**

パスタ・エ・カフェ・シオサイ/PASTA e CAFE SHIOSAI

これまで、ぬいぐるみを作ったり、折り紙を折ったり、羊毛フェルトでチクチクしたり...いろいろ楽しんできました。今回は、初めて刺繍を楽しみました。色々なステッチを教わりながら、出来上がった世界に一つの“にわとり”。参加人数は、12名でした。



2017年3月3日(金)

**幼稚園の畑でいちごの苗を植えました**

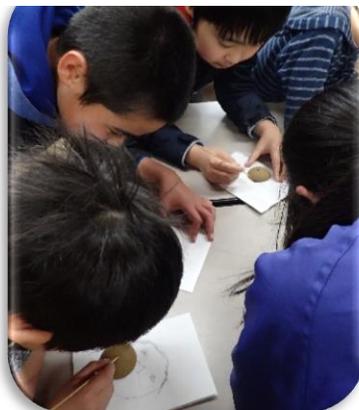
いちごの苗がこれからゆっくりと育っていけるように、幼稚園のお友だちが雑草を抜いてくれました。5月ぐらいまでの間、また大切に见守っていきます。春には、甘くて美味しいいちごたちと出会えますように。



2017年3月5日(日)

**教会学校**

活動では、粘土で自分の顔を作ってみました。まずは、友だちの顔を見て、描いてみる。「鼻は？口は？眉毛の位置は？」なかなか難しい...。次は自分の顔を描いてみました。そして、粘土に自分の顔を、描きます。「う～ん...」これは、一体だれ？園長先生が、だれかの顔を描きました。



## ～あるがままに～

### 「順子先生の出会い日記」

保育の外部への公開を積極的に引き受けるというのをはじめたのが2007年度。公立は幼稚園、保育所など市の管轄などのところでは、そういう方向性が出れば一応年間予定に入れていくけれど、私立は門戸を開くことにあまり積極的ではない、そんな相談を受けて「それでは先兵になりましょう」と名乗り、しかも午後には講演会まで設けるということにしました。

オープンデーはその日に都合が悪かったからなどとあとで言われるので、それではと次は翌年からオープンウイークに。年数を経る中で思ったことというか再確認したことは、もちろん皆さん忙しいのでしょうが、とにかく気持ちの問題だと思ふに至りました。

「機会を活かすか」、いや行動に移らないかそれだけです。まあお節介と言われる所以ではありますが。

で、2017年は2月の20日からの1週間、講演会は午後に2度と設定。かつて日替わりでゲストの訪れが週に4回という年度もあったり、とても小さな園では設けられないような機会、しかもそれなりに名を知られている方や、えーっすごいという方々をお呼びして頂くことができました。浜田壽美男先生に菅井啓之先生は定番での登板を、そして今年はそのレギュラー陣の菅井先生、もう一方は兵

庫教育大学でお世話になった先生をお願いしてのお話を聞く機会でした。いい人に出会ったらぜひいろんな人に紹介したい、だからお節介屋！絵本作家の甲斐信枝さんも数年前にお越しくださっています。

さて初登場となった兵教大の石野秀明先生は「幼児期から就学に向けて」で話していただけたらというだけのお願いに「言葉と思考を中心に」4歳から5歳児の生活で大切なことをしっかりとまとめてのお越しでした。遊びの充実が発達の鍵であると強く思われていることもあり、子どもたちのところに仲間入りされてから何度も繰り返されたのが実によく遊ぶ子どもたち、そしておとなが遊びの達人であること。100パーセントの達人ではありえないものの、共同での伝承を大切にしている冬の遊びの環境です。この環境が上手に設定されていることもこれまで他の方にもよく見ていただいてきて評価のあったものですが、今年は特にそのことをいろいろな方から声をかけていただきました。大事にしてきたことなのうれしいですが、子どもがよく遊んでいるとあまりに言われると、「他の子どもの生活の場所はどうなってるねん」と返したくなります。1時間1時間で区切って次々におとなからの指示のもと、その日におとなが予定しているものを一方的に与えていく園のありようが多い中で、一人ひとりが遊び込んでいるとのこと。もちろんこれはすべてをそうだわねと受け取り安心しているわけにはいきません。それ

ぞれの子どもの到達度があるからです。また遊べていない子どももいる、だからどう誘うか、よくいろいろなことができるようになってきているけれど、それならば次の段階をどう見せてあげるか、とにかく子どもの生活の場は自分が遊び名人や達人にもなるのも必要だし、何より子ども一人ひとりを見ているかどうか、おとなが問われるのです。遊びには時間が必要、それはその年だけでなく年度を越えてです。ほしおくん（5歳）はずっとこま板のところにいる昨年からまあ急上昇の今年。すごい勢いでひもを巻く。昨年はあまりにこまのところにいるのでおかあさんに家でも機会を作ってあげてとお話したことがありました。1年の時間、そこでいっぱい力をつけて、いざ！の今のこま板のところの時間にです。

石野先生はお持ちくださった、少し心配される改訂間近の教育要領を見せてくださりながら、何よりこの日の子どもたちの場面場面に合わせて話してくださいました。人間関係ということを取ってみても、場面場面の中での人との付き合いができるようになっていっているか。また運動にしてもおこなわをする子どもたちの「3歳の子はとにかくその場でジャンプしている」、少ししっかりしてくると「なわを見ていて跳ぶ」、幼児期の最終期の今ごろでは、数人で跳んだり、小さい子どもを抱きかかえて跳ぶなどの場面が出てきます。そういう発達の様子を個人個人の今を、わたしたちが見ているか、

捉えているかですね。

新しい要領は何と、10項目の目標に健康が1項目しか入っていない、一番の基礎であり、10の中に入れるのもおかしいし、ピラミッドの底辺に据え置くべきものです。1なんて、一体どういうつもり？運動や生活習慣などいっぱい含まれる「健康」なのに。

幾つもの我が園のその日に合わせての指摘（そう聞こえました）は、ほんとうによくわかるものでした。松島さんの陶芸展のおかげで、しっかりした大きな箱が残ったのですが、それを遊びの場に出していました。しかししばらく出番のなかったその箱を出してほしいとの子どもの要望で園庭に。そこでの子どもたちの「認知」について。箱に入っていて、入り口を閉められても5歳くらいなら「中にも外が想像ができる」、しかし幼いと中に何があるか、入ったらどうなるか、閉められたら～、中と外との理解ができるほどにはまだ十分には育っていない。そこで当然表情が変わってくる。それらを遊びを展開する中で「〇〇ちゃんは怖がってすごい緊張の顔だった」「〇ちゃんは余裕で出てきた」など先生たちはおたよりで報告したりする。でもその箱の遊びを通して一人一人をもっとつかんだり、その遊びと年齢とを、想像力や動きなどを通して整理はできていません。箱の近くで見ているだけの子どももいるわけです。そういう「見る」という重要な指摘をいただいたなど他の指導の場面でも思いました。

遊んでいる、遊び込んでいる、そう言われて満足はしていられないとしみじみ思ったことです。

子どもたちの遊びの育ち、いかにそこに「動作」が多くあるか。動作の経験が必要、だから実は動作が限られてくる「運動の習い事」は意味がないとの強い指摘。総合的に身体を使い、手も足もあらゆる身体のすべてを使っていくことが幼児期では大切とも。ここでうれしくなったわたし、毎年卒園式で子どもたちの写真を使って3年間を振り返ったりするのですが、ある年度に「動詞」というテーマで写真を構成しました。成長発達はどんどん動詞が増えていくことだと思っていたからです。抱かれてすべてをおとなに託していたころから、「見る」「笑う」「手をのばす」「つかむ」「振る」「すわる」などなどどれほどの動詞（動作）が加わっていくことでしょうか。そして「歩く」「走る」「話す」「描く」などと広がっていくそれから。幼稚園に入ってからそれらを写真で整理していったのです。動作より動詞がいいわねとあとの会で盛り上がりましたが、自分たちのこれまでと、その日の話が合うところがあるのは最高、ほんとにうれしく思いました。

その話に、公同やわたしをよく知っている一人が「この人は発達心理学の方面からではなく保育学からきちんときわめている」と。いやあ保育学ねえ、しかし子どもと生活してきたからこそ、少しはきわめてくることのできたかもしれない。

それは、「単位数の学び」というところにも出てきました。遊びの中で自然にでも意識して、野菜やくだもの、その多様な種類、大きさを比べる、個数の想定をする、重さを測って小さくても重いものもある、など遊びの中でいっぱい楽しんできた公同の子どもたち。どんなに仕掛けを楽しんでも「単位数が」などと思っただけではないけれど、5歳ならこれくらいのことを一緒に考えられるかも、3歳はモノに出会って歓声を上げるだけでいいけれど、年齢の進みによって「味わう」までには幾つかの「考える」ハードルを思ってきました。そんな時間、その目の前の子どもからの学びの積み上げがあって、次が生まれてきた、まさしく現場でのわたしたちの学習に他なりません。

言葉と思考への指摘も面白かった。スマホの「り」、何かと思ったら「了解」の略。ことばの雑さが思考をダメにする、です。子どもの中で生活して、やりとりをいっぱい楽しみ、それをことば化しておとながあとで振り返る、加えて公同はクラスだよりも書く。こうしておとなの思考が育てられてきました。ことばのいっばいのやりとりの大切さ、対話を大事にしたいと願い、子どもの時間も子どもからのことばを引き出す楽しみにはまり、いろいろ工夫し、それを家庭に伝える、そこからまた次につながっていく面白さへと広がってきたこれまでです。ということで他にもあるのですが、石野先生にはずいぶん現場と、発達心理学とを結び、整理しこれからの課題を見せてい

ただいたように思います。

わたしに残された時間で、これらのことが少し形にできればいいなと直後はテンション上がっていたのですが、さあどうなるでしょうか。

2016 年度の公開保育や講演会の時間は、たくさんの「頭の体操」でした。そうそう、来園の方々にどれだけわたしのけんだまのモシカメを褒められたことでしょうか。わたしくらいの程度を「お上手で〜」では、やっぱり他では！？一体？かなと。

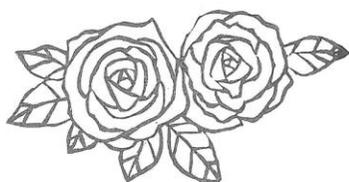
3 月も半ばに！ですね。2 月の終わりに園の裏の空き地に「ふきのとう」発見。おう、この季節がです。1 年の速さよ！の毎日。去年は、その前はなどとあれこれ振り返りながら過ごしています。

## 「こうぞう版行動報告書」

2 月 24 日から 2 泊 3 日で沖縄に行ってきました。兄が単身赴任で沖縄に住んでいるので、会いに行くのと、泡盛を呑むことを目的??でした。でも誤算だらけの旅で、1 つ目の誤算は、往きの飛行機での出来事です。車いすのクッションが気圧の関係でパンパンに膨れて機内で座っていると尻が痛くなり大変でした。2 つ目の誤算は、沖縄は暖かいものだと思い込んでいたことでした。当日は曇っていて時々雨が降っていて、気温も低く肌寒かったので、2 日目観光に行く前にまさかのユニクロ行きでした。

観光ですが、首里城公園や琉球ガラス村に行き沖縄を満喫してきました。それに沖縄限定のボンカレー（関西でも 1970 年代に売られていたパッケージのもの）も大量購入。泡盛も呑めだし購入もできて、当分の間家でも呑めるので毎晩楽しみにしています。

（下平 浩三）



教会の火曜日 10 時から 12 時 於：西宮公同教会集会室

第 1 火曜日	わいわいお茶会
第 2 火曜日	ゆっくりと聖書を読んでみませんか
第 3 火曜日	読書会
第 4 火曜日	社会のこと、世界のこと

## ～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

### 「アメリカでも奮闘しています」

先日、10日間の滞在で日本からの来訪者がありました。私の友人の友人に当たるその方は、アメリカの教会で行われている「デボースケア」(離婚を経験した方々へのケア)という宣教活動に興味を持たれ、ご自身の経験からもそれらの活動を学びたいという理由でこちらに滞在しながら各教会を訪問される時を持たれました。

私が現在所属しているウェスレー教会にはそのようなケアミニストリーは無かったので、私自身興味を持ってその方のお話を伺う機会ともなりました。ウェスレー教会には離婚を経験された方へのアプローチの活動はありませんが、特に原因を限定せずに心に闇を抱えた方々、また様々な痛みを抱えた方々と共にその痛みを分かち合い、共に乗り越えていくお手伝いをさせていただくという「スティーブンミニストリー」という活動があります。牧師ではなく信徒が学びを行った上でそれらのケアにあたっています。いわゆるカウンセリングのような役割ですが、希望を共に見上げていくという教会ならではの活動となっています。それらの活動をご紹介しながら、日本でのこれからの必要についても考える機会となりました。

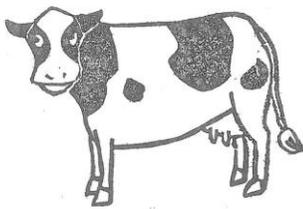
今回の来訪者の方を通して、日本の教会にはデボースケアがないこと、また教会で「離婚」について話すこと自体がタブー視されていることなどもお聞きしました。その方は当時、聖書には離婚はいけないと書

いてあるという理由で牧師や信徒から責められ、教会に通えなくなるとおっしゃられていました。様々な理由で一番親しい家族である関係が壊れ、自分自身も見失いかけているその状況の中で、一番の心の拠り所となるはずの祈りの場所すらも失われてしまう現実も知りました。確かに離婚は、「幸せ」や「祝福」や「神のご計画」とかけ離れた出来事にみえるかもしれません。ですが、だからこそ、教会や、目に見えない神様の助け、支えが必要になるのだと思うのです。一番大切なものを失ったその時に、その人自身の信仰や生き方を教会が責め立てるとするならば、それは救いを宣べ伝える場所、教会だと言えるのでしょうか、そのようなことも考えさせられました。

カリフォルニアでは離婚率が50%と言われています。そのことはとても悲しい現実です。ですが、誰一人結婚生活を終わらせたくて終わらせた方などおられないのです。その後取り残された子どもたちへのケア、また家族という一番身近なコミュニティーを失ったものへのケア、寄り添いながらどう再生していけるかを共に考えることができる仲間や辛い経験を話せる場所が必要であることを改めて感じています。今回来訪されたその方は、アメリカの様々な教会で行われている「デボースケア」に参加し、同じ体験をしてそれぞれに傷を負った方々と共に話をし、また共に学び、そして希望を見出していく過程を少しの間でしたが経験されて、出会いに感謝、今自分が生

きていることに感謝、また希望を見出して歩まれた方に出会ったことへの感謝など、たくさんの感謝を携えてご自身の「希望」を見出す道へと歩まれておられました。日本とアメリカの文化は大きく違いますが、同じ人間の心の痛みを再生していく過程はどの人間も同じだと感じます。アメリカで行われている良いものをどうか日本にも伝えたいと心から思われた時となりました。

(山本 知恵)



## 名護ぬ七曲 (54)

### 「復帰」後の沖縄県政 7

ウチの子(下の子)もいよいよ中学卒業。来月からは高校生です。学校は同じ名護市内にありますので、バスとかを使えば十分通学できる距離なのですが、新入生は全員寮という堅い決まり。なんか寂しくなりそうな...

\*\*\*

**【県民投票 その後】** 1996年9月8日に実施された沖縄県民投票。「日米地位協定の見直しと基地の整理縮小」を問う投票は、賛成が482,538票89.09%。反対が46,232票8.54%という結果。その2日後、大田知事と橋本龍太郎首相(当時)の会談が行われております。政府としてもこの重大な結果を無視するわけにはいきません。ここで橋本首相は沖縄の米軍基地問題と振興開発に取り組む姿勢を見せます。しかしこれを基地問題解決への前進と捉えるならば、今度は大田知事が代理署名に踏み切らなければなりません。署名拒否の理由が「政府が沖縄の米軍基地問題に取り組まないから」でしたから、政府が「取り組みます」と言うのであれば、拒否する理由がなくなってしまう。(探せばいくらでもあるのかもしれない) 米軍基地問題を解決するにあたり、土地の強制使用を認めなければならぬ—という何とも不可思議な成り行きを招いてしまったような、そんな気がしないでもありませんね。結果の見える県民投票を県はどうしてこの時に実施したのか、もうちょっとよく当時のことを調べ

てみないといけないかもしれません▼勿論、県民投票に至った理由がその時幾つかあったと思います。その一つがやはり前年（1995年）に起きた米兵による少女レイプ事件であったことは間違いないでしょう。この事件そのものと言うより、戦後、米軍統治を経、日本に「復帰」してもなおこの50年間、負わされ続けてきた痛みと悲しみが背景にはあるわけですから、「もう我慢ならぬ！」という爆発的な思いが県民・住民を突き動かしたのも間違いありません。それが八重山・宮古・沖縄島各地で開催された「県民総決起大会」に結実し、この人波がまた県行政を突き動かし、大田知事の代理署名拒否、翌年の県民投票の実現に至ったものと考えられます。県民の悲痛な思いを公式に示す一つの手立てとして、県民は真摯に投票に臨んだと思います。その結果を政府が交渉打開の名分として政治的に利用したとすれば、これは断じて許せない話です。交渉というのは本当に難しいものです。それがまた政治でもあるのでしょうけれども。

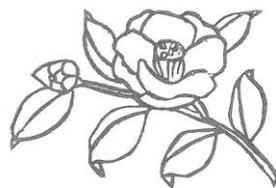
**【改定特措法】** 大田知事の代理署名拒否は、裁判では負けはしましたが、一部の土地について使用期限の更新が間に合わなくなるという一定の成果をも生み出しております。そのため国は土地の不法占拠という、国としてあるまじき事態に陥ってしまいました。普通ならここは法に則って即時返還されるべきところ、あろうことか国はこの非合法状態を抜け出すために、なんと法律の方を変えてしまうのです。「期限が切れた後でも国は暫定的に使用ができる」

というふうに。(米軍用地特措法の改定特措法1997年)はあ？ですよね。そのうえ更に1999年、同法は「地方自治体を介さずに、直接国が強制使用の手続きができる。」という内容にバージョンアップされます。もう開いた口が塞がらんとはこのことすわな。

\*\*\*

ウチの子が来月から行くことになる学校・学生寮は同じ名護市内の辺野古区にあります。政府が建設を強行しようとしているあの最新鋭米軍基地と、もう目と鼻と口な距離ものですから、本来しないでよいであろうはずの心配も、正直全く無いわけではありません。が、もっと正直な話をすれば、「まさかそんなことは起こらないだろう」と言う気持ちが心のどこかにあります。この“余裕”は一体どこからくるものなのか？いろいろと考えさせられております。

(羽柴 禎)



2017年4月 西宮公会教会カレンダー

曜日	教会礼拝堂	集会室	幼稚園園舎	アートギャラリー	2F和室	3F和室	3F洋室	その他
1 土	8時30分～ 毎天祈禱会	10時30分～ 教会学校スタッフ会						
2 日	9時～ 教会学校 10時45分～ 聖日礼拝	9時～ 教会学校						12時～ 川そうじ
3 月								
4 火					9時～ 野菜市			
5 水							14時～ ギター教室	
6 木								
7 金		19時～ 関西神学塾						始園式
8 土								
9 日	9時～ 教会学校 10時45分～ 春日礼拝	9時～ 教会学校						
10 月								
11 火								
12 水					園芸 お母さんぐま		14時～ ギター教室	入園式
13 木								
14 金		19時～ 関西神学塾	ききるん		紙芝居			
15 土								
16 日	9時～ 教会学校 10時45分～ 聖日礼拝	9時～ 教会学校						イースター記念礼拝
17 月								
18 火		10時～ 換骨会		9時～ 野菜市				
19 水				9時～ ききるん 紙芝居ハズル	園芸 お母さんぐま		14時～ ギター教室	
20 木	13時～ コーラス			9時～ ききるん 紙芝居ハズル	文庫			
21 金		19時～ 関西神学塾			紙芝居			
22 土								
23 日	9時～ 教会学校 10時45分～ 聖日礼拝	9時～ 教会学校						
24 月				9時～ ききるんの会				
25 火		19時～ 社会のこと、世界のこゝろ						
26 水					園芸 お母さんぐま		14時～ ギター教室	
27 木	13時～ コーラス				文庫			
28 金		19時～ 関西神学塾			紙芝居			18時～ 第2回「風の聲」 新宮 善 風のミュージアム
29 土	昭和の日							
30 日	9時～ 教会学校 10時45分～ 聖日礼拝	9時～ 教会学校						
				9時～ ききるんの会				

MEMO  
次回、カレンダー会議日程 2017年 4月 18日 (火) 9時～

- 教会**
- ・聖日礼拝(平日)と毎週日曜日に1行なう礼拝。共に聖書を読み、共に賛美を歌い、共に祈りを捧げ、共に祈る時間を過ごす。
  - ・祈禱会 (毎月2日開催) 西宮公会教会を運営する教会員で選ばれた方々の会談。
  - ・毎天祈禱会 (毎月1日午前10時半から11時半) 西宮公会教会の教会員で選ばれた方々の会談。
  - ・聖書研究グループ (毎月第1、第3次曜日の午後7時から行なわれる聖書の勉強会)
  - ・本会の各教会の活動の紹介。
  - ・1000人を超える賛助者の方々が、毎月第2次曜日に1行なわれる賛助者の感謝会。音楽や絵画など、身近な題材を通して聖書に親しみあう。
- 教会学校**
- ・教会の礼拝の前に行なわれる子ども礼拝と、子どもたちの活動。
  - ・教会学校・春祭会・たのしい学習会・キャンプ、その他の野外活動
- 西宮北口伝道所**
- ・西宮公会教会の隣りに伝道し、賛助者を増やす「着のセンター」とする伝道所。
  - ・福音宣・福音伝道センター運営委員会・福音会
- 幼稚園**
- ・聖書を通して西宮公会教会の幼稚園
  - ・牧会室・お母さんぐまの会・紙芝居サークル・園芸サークル・陶器サークル
- 分科学園**
- ・大野ギター教室
- 関西神学塾**
- にじきつ講座(西宮)・西宮西宮北口北出口一帯の傳道所、西宮公会教会、幼稚園(その敷地に併設している)。
  - ・関西神学塾 西宮校(西宮)・西宮北口校(西宮)・にじきつ新宮校(新宮)・その他各地校
- アートギャラリー**
- ・西宮分科学園敷地内の一画にあるフリースペース、「子どもたちの展覧会」をテーマにしたさまざまな展覧会を開催している。
  - ・アートギャラリー運営委員会・季節展覧会・ききるん・ききるん09・特別展覧会
- 分科学園**
- ・大野ギター教室
- NPO法人(人と人および人と自然をつなぐ企画)**

今月の言葉

なんでもいからまずやってみる  
それだけなんだよ

岡本太郎

今月の聖書の言葉

私たちがカレンダーを掲出します

前野優子(母の会)  
金澤幸子(NPO法人人と人および人と自然をつなぐ企画)  
(今月の担当・編集)

このカレンダーは毎月25日に発行します

## 楽しい教会の火曜日

たのしい教会の火曜日は、その週が始まって2日目火曜の午前、少しゆとりを持って教会の1室に集まり、時間を過ごす願いで始まりました。

集まる場所は、西宮共同教会1階の集会室です。床（松）、壁（杉）、天井（コルク）すべて木造の集会室です。飲み物を用意し、そのまま食事を用意したりも出来、不定期になりますが、地域の方々にワンコインランチ（福in、カフェあめかぜ）を提供する場所にもなっている部屋です。

教会の火曜日は、週毎にほぼ以下のような内容で時間を過ごすことになっています。

### 第1火曜日

近くに散歩に出かけ、季節の草花と出会ったりします。専門的な知識がなくても、手軽なテキスト（「スキマの植物図鑑」／塚谷裕一／中公新書）などで紹介されている草花に出会うと嬉しくなります。

### 第2火曜日

ゆっくりと聖書を読む時間です。古代の書物である聖書は、今生きている自分を見つける目で読んでみると、堅苦しい信仰の書物としてではなく、生きた人間の息吹と出会うことが出来ます。そもそも、生きた人間の物語を描いたのが聖書なのですから。

### 第3火曜日

読書会です。芥川賞“芸人”又吉直樹の「火花」（近作として「劇場」を発表している！）を読んだり、絵本で世界を広げたり、詩の言葉に耳を傾けたり、幅広い読書の時間を楽しみます。DVDで映画を鑑賞し、直接劇場に出かけたりもします。

### 第4火曜日

お母さんの社会勉強。政治を動かしている仕組み、経済のことも難しいと言わず、広く世界にまで目配りし、今、自分たちが生きている社会に関心を持ち、心配りする時間です。

## たのしい教会の火曜日

場 所：西宮共同教会集会室

時 間：毎週火曜日 午前10時～12時

参加費：100円（教会からの補助もあって、担当者が毎回、手作りの“おやつ”などを用意して下さっています）。

## ～ つとがわ・あれこれ ～

「ゴーマニズム宣言 SPECIAL 天皇論平成 29 年 増補改訂版」(小林よしのり、小学館)は、その制度が現存することを前提に、その事実をそれとして明らかにする目的で書かれているように読めました。「読めました」とは言うものの、何しろクドクド事細かに書くのが得意な人ですから、そのまま事細かに読むのは大変で、かなり端折ったりして読んでしまいました。ただ、核心に迫らないことにする場合が多い「天皇」というテーマを、比較的ありのままに率直に迫って書いてはいるのです。例えば、昨年から話題になっている「退位」も、天皇という制度・仕事を背負いつつ、その人たちが人間、家族であることを尊重するとしたら、今それを論ずることの意味を、他のどんな論説よりも迫っているように読めました。何よりも悩みの種は後継者なのです。普通に人間、家族である限り、後継として決まっている「男系の男子」を実現し続けなければならないとしたら、誰にとって一番の負担になるのかは明らかです。聖書の古代社会の物語(旧約)でも、後継者を「産めない」ことでの負担・責任を取らされるのは女性です。「男系の男子」が絶対である後継者を「産めない」ことでの負担・責任は、それを変えない限り、その当事者を文句なしに追い詰めることとなります。「天皇論」は、「退位」で何よりも求めているのは、女性天皇への道であることを読み取ります。

同時に「天皇論」は、「退位」を求める天皇・皇后が人間として選び実践してきた「公務」について、具体的な歩みを追いながら論じているようにも読めました。

「戦争をしない国/明仁天皇メッセージ」(矢部 宏治文、小学館)は、戦争をしない国の敗戦後を、戦争をしない国の歩みとして刻もうとしたのが天皇であり、その言葉の一つ一つであることを、その言葉で明らかにしようともしています。たぶん、その対極にいる人のことを「安倍晋三は、…権勢を欲しいままにして、天皇の權威を踏みにじったら、蘇我入鹿(そがのいるか)をも、ほのかにしのご、日本至上最悪の天皇へ反逆者として!」と「天皇論」は臆することなく名指しにします。

(S)

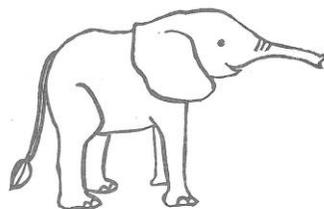
先日、久しぶりに友人と飲む機会がありました。10何年振りに、カウンターだけのちっぽけな居酒屋の隅っこでゆっくりと。日本酒を飲みながらのあれやこれやの積もる話はずきません。その友人とは昔一緒に仕事をしていた関係で、香港に何度か訪れ、現地にも友人が出来ました。この友人は香港での夜の帝王みたいな人で、その友人との食事はもちろん中華料理。

様々な中華料理を経験しました。中華料理の王様 広東料理、ピリ辛の四川料理、また中国の家庭料理、北京ダックや子豚の丸焼き、フカヒレの姿煮、本場の担々麵。この時の食の記憶は今でも持続していて、日本でこれよりおいしい中華料理には、まだお目にかかってはいません。本当に懐かしい思い出ですが、その時の友人は商売の関係で中国奥地へ行き、豪雨に巻き込まれ乗っていたバスが転落し亡くなったそうです。とても残念でなりません。

(Y)

2月末に、従姉妹が遊びに来てくれました。出張で東京に来るため、1日有休を取って岸和田から石岡へと来てくれました。水戸の偕楽園の梅が見頃だったので、合流してそのまま水戸へと出発。広い公園をのんびり歩いて、春を感じて、とても気持ちのよい時間でした。次の日はどこに行こう?と、茨城の本をパラパラめくり…。私と従姉妹だけで出かけるので、あまり遠くには行かず、近場で楽しそうな所を探しました。つくばの宇宙センターに行きたかったのですが、残念ながら月曜休館。ということで、筑波山に行ってきました。いつも車で出かけた時に見える筑波山。一度登ってみたいなあと思っていました。でも、頂上近くまではロープウェイで。そこから少し歩いて頂上まで行きました。大きな岩がゴロゴロしていて怖かったですが、絶景!!! 空気が気持ちよくて、しばらく岩にもたれてのんびりしました。ばたばた過ごした2日間でしたが、また遊びに来たいと言ってきて、次は月曜日以外の日です! つくばリベンジしたいです。

(C)



上の息子がやっと(?)先日、高校を卒業しました。彼の高校3年間は、割といろんなことがあったと思います。それもこれから生きていく上で、必要な経験だったのかもしれませんが、本人もですが、私もなかなか大変でした。私が学校に行かせて貰ったのも、学年でダントツ1番だったでしょう。その分、先生方とは大変仲良くさせていただきました。高校卒業とは、人生の中でも大きな転換期の一つだと思います。社会人になる人も、大学生になる人も、今後の生活を自分自身で作っていかねければなりません。周りの方々の色々な支えを大切に、たまには、親子喧嘩もあるけれど、これからもずっとずっと応援していきたいと思っているので頑張ってください。

(K)

墓を2件引き受けています。1件は実家の墓ですが、1969年に幼くして弟が亡くなり、まだ父が現役だったこともあったのか、近辺の墓の2倍はある敷地を購入した立派なもの。7年前に父を納めました。もう1件は先年95歳で亡くなった母の姉、伯母宅のもの。伯父と伯母がそこには。これは何であんたがなのですが、伯母のところは子どもがいなかったので特に身寄りがなく母がすべてを引き継いだから、で小回りさんのわたし担当に。

お彼岸も近いので墓の清掃とお花をの先日。掃除は素敵な助っ人がいて墓は家の中より綺麗(変な自慢)。その実家のところで作業をしながら、助っ人さんが「この墓にはこんな石が小石の中にあちこちにある」と言われたのです。エーッ!手に取ってビックリ。それってあの、あのチャートではありませんか。堆積岩、年長さんが園長先生と出かけた折にいろんな場所で探してくるあの重い石。2つ合わせると素敵な音が出て、火打石でもあるチャート。2万年からの年月を生きてきた石。弟は石を拾うのが好きでした。葬儀の折に出席した仲間の一人の女の子が「遠足の折に石を

いっぱい拾って重い重いと書いていましたね」と弔辞の作文を読み上げていたのを昨日のように思い出します。

母はそれをお墓に置いていたのですね。今年で48年、弟の死は我が家にとっては実に大きな試練でした。父は戦争の悲惨な体験ともども黙して語らずのまま亡くなり、間もなく93歳の母は古いことを覚えているわりには弟のことは思い出にはないようです。つらいことは考えないことにしたのでしょうか。

(J)

カット (A・T)



政治・宗教思想研究会／関西神学塾  
《今後の講義予定》

- 3月24日(金) 勝村弘也先生「申命記史書を読む」(48)
- 3月31日(金) 栗原康先生「大杉栄」(2)
- 4月1日(土) 栗原康先生「アナーキスト 一遍」
- 4月7日(金) 岩野祐介先生「内村鑑三」(41)